様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　６ 日現在

機関番号：２４４０５
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｈ０１２２４

研究課題名（和文）アジアにおける社会包摂型アーツマネジメントモデル形成と応用

研究課題名（英文）Making a Model of Socially Inclusive Arts Management in Asian and its Application

研究代表者
中川　眞（Nakagawa, Shin）

大阪公立大学・都市科学・防災研究センター・特任教授

研究者番号：４０１３５６３７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、アジアにおける社会包摂型アーツマネジメントのモデル（理論）を明示するとともに、その応用実践や政策提案を可能とする、研究者と実務家の協働プラットフォームの最適化を目的とする。共助・互恵といった集団福利志向型の社会関係資本〔共助組織〕、検閲を熟知したダブルバインド的手法〔パワーバランス〕、プロセス途次での大胆で即興的な変更〔遂行モデル〕などに大きな特徴が見て取れるとして、その検証を実施し、伝統的な互助システムを援用するモデルが明らかとなった。その活動はジェントリフィケーションの影響を大きく受けているが、行政に依存することなく、ネットワークの強みを生かした協働作業に大きな特徴がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義
Socially Engaged Artの議論では欧米でのパフォーマンスの隆盛、互恵的寛容、非物質性等が指摘されているが、アジア諸国においては、遙かに先鋭化したかたちで、伝統的な社会的活動として、そのような表現特性が現れているところに着目した点、また、空間が権力にとって都合のよい場へと変容、再構成されていくと批判するD. ハーヴェイや、時間から空間へと考察対象の変化を提唱する E. ソジャ等の批判的地理学の議論と、社会包摂型のアーツマネジメント論を接続させた学術的意義は大きい。社会包摂型アーツマネジメントのモデル抽出は、現場の実践家のスキルなどへのフィードバックが大きく、社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This research aims to identify a model (theory) for socially inclusive arts management in Asia, and to optimize a collaborative platform for researchers and practitioners to apply the theory to practice and propose policies. The study examined the major characteristics of the model, which include: collective welfare-oriented social capital (mutual aid organizations), a double-bind approach (balance of power) with a thorough understanding of censorship, and bold and improvisational changes at the end of the process (execution model). The model that supports the traditional mutual aid system is clear. Their activities are heavily influenced by gentrification, but is characterized by collaborative work that leverages the strengths of the network without relying on the government.

研究分野：芸術実践論

キーワード：アジア　社会的包摂　アーツマネジメント　モデル　ジェントリフィケーション

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

アーツマネジメントがアカデミアの中で議論され始めたのは新しく、第二次大戦後のイギリスの J.ピックらを嚆矢とするが、コミュニティベースでは、N. F. ギバンズの “The Community Arts Council Movement”(1982）などが先駆けである。そこでの議論は、美術館や劇場、音楽堂などの文化施設を前提とした分析モデルに則っており、我が国でもほぼ欧米の理論を踏襲している。しかし、本研究ではそこに「問い」を投げかける。欧米型のアーツマネジメントモデルはアジアに適用可能なのであろうか？　それへの応答が本科研の焦点になるが、これまでの研究結果からすれば答えは「否」である。部分的にカスタマイズすることによって凌げるほど、アジアにおけるアートの現場は容易ではない。むしろ、アジアの社会構造や政治的文脈の上に沿って、新たなアーツマネジメントモデルを組み立てる必要があるというのが本研究開始当初の背景である。

２．研究の目的

目的は２点あり、①アジアにおける社会包摂型アーツマネジメントのモデルについて、仮説に基づく検証を経た上での確立、②応用実践や政策提案・制度設計を可能とする、研究者と実務家の協働プラットフォームの最適化。以上２点を目的とする。

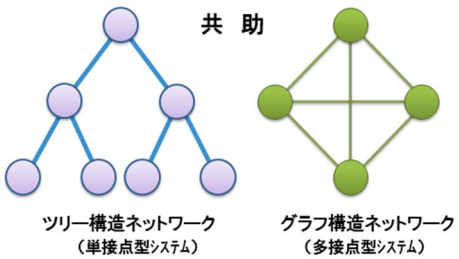
アジアの文脈に適した社会包摂的なアーツマネジメントのモデルを、アジアの伝統的な社会関係資本の流儀を再活用して組み立てることができないだろうか、という「問い」に対して、以下の仮説を設定した。共助・互恵といった集団福利志向型の社会関係資本〔共助組織〕、検閲を熟知したダブルバインド的手法〔パワーバランス〕、プロセス途次での大胆で即興的な変更〔遂行モデル〕などに大きな特徴が見て取れるほか、宗教的規範、身体性（非物質性への傾斜）なども要検証であり、見方によれば混沌と思える部分に、実は深い社会的知識が宿っている可能性が高く、それを「遅れ」ではなく独自性と捉えることによって、アジア特有のマネジメント像が浮上するのではないか、という仮説である。

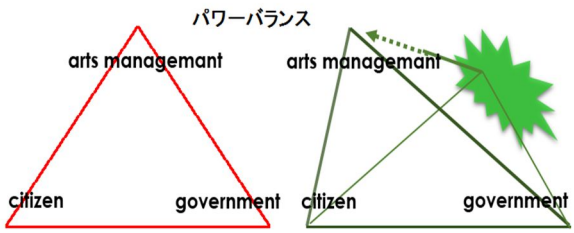
①についての具体的なアウトプットは、英文による研究集成出版とツールキットの出版である〔最終年度〕。②についての具体的なアウトプットは、アジア・アーツマネジメント会議、２つのフォーラム（バンコクとジョグジャカルタ）の開催とジャーナルの刊行（毎年）、協働実践（～平成 33)、政策提案（最終年度）である。

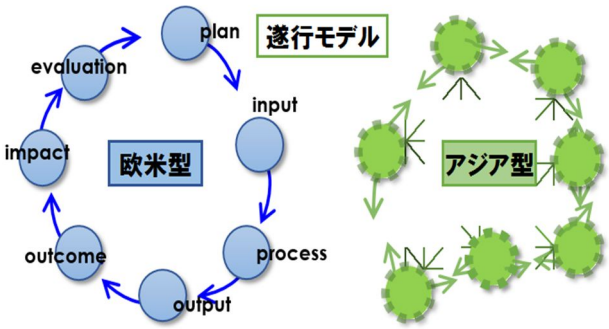
３．研究の方法

本研究で主に参照する学術的アプローチは SEA（Socially Engaged Art）論と地理学の社会空間論の２つであり、その理論的枠組みの中で考察を行うが、その際の分析データとしては、アジアの現場でのフィールドワーク、さらに共同実践などを通して得られた情報が中心となる。

具体的には、３つの仮説の検証作業を通して上述のアウトプットへと繋げる。







年度毎の工程、作業内容に加えて、目的（①②）との関連を付記し、最終年度までのプロセスを明示する。３年の調査、実践の後、４年目に成果発表としての出版準備（英訳も含めて）ならびに制度・政策提案へと大きく軸足を移す。国際会議は毎年行う。

４．研究成果

本科研は東南アジアにおけるコミュニティベースの社会包摂型アーツマネジメントの方法、思想、社会的機能を抽出する目的で、シェムリアップでの現地実務家・研究者との会議（第 14 回アジア・アーツマネジメント会議、2020 年２月）を出発点として、現地調査を含めた共同的な研究を開始する予定であった。しかし新型コロナ感染症の世界的蔓延によって、アジア諸国でのフィールドワークは閉ざされてしまった。

そのような状況のなかで、我々はオンラインを通して情報交換や議論を進めていった。実は、それによって、これまで見逃していた多くのことに気づいたのである。まずアジアにおけるコミュニティアートの言語化が進んでいないことが第１に挙げられる。これは実務家と研究者との連携が適切になされていないからである。シンガポールベースの The Asia Pacific Network for Cultural Education and Research（ANCER）はその乖離を克服しようとする数少ない団体のひとつである。また台湾ベースの Mekong Cultural Hub（MCH）はメコン５ヶ国を中心とする東南アジア全域の文化実践者の支援とネットワークづくりに注力している先導的組織であるが、研究者の介入が少ないことから、中川が主宰する Asian Arts Management 会議（AAM）に協力が要請され、2020 年より中川ほか本科研の分担者である岩澤などが協力・参加し、MCH のウェブサイトに論考を掲載するなどの共同作業が始まった。

これらのコミュニケーションの中でさらに気づいたのは、コミュニティベースのアートにおけるアーティストの特権性である。コミュニティアートにおいては参加型が称揚され、事実多くの住民の参画によって成り立っているが、そこで主導的に活躍しているのはアーティストであり、アートのスキルをもった関係者であり、結果として住民との間に微妙な権力関係が生み出されているのである。もとより美術館や劇場といった制度的なアート施設の場ではアーティストが特権的存在であることを誰しもが認めるが、コミュニティアートにおいてもそのような階層性が隠れた形で存続している点に気づかされたのである。些細な権力関係かもしれないが、それが蔓延することはアートを通した社会包摂にとって大きな障害になるのではないかと思われた。同時に、その気づきは「アーティスト不在のコミュニティアート」の可能性をも示唆した。MCH が、アーティストではなくコーディネーター、ファシリテーターの能力向上に注力しているのは、そのような背景があったのである。

各年度の実施経過・成果は以下の通りである。2019 年度（平成 31・令和１）は台湾、タイ、カンボジアにて調査並びに会議を実施した。台湾では、台南芸術大学、メコンカルチュラルハブ台湾本部にて中川が社会包摂型アートに関する講演を行い研究者、実務家との交流を実施した。タイでは国際伝統音楽協議会の大会において、中川、岩澤が過疎地における文化実践などについての発表を行い、研究者との交流を行った。カンボジア（シェムリアップ）では第 14 回アジア・アーツマネジメント会議を実施し、9 ヶ国から 24 名の参加者を得て、コミュニティベースの ア

ーツマネジメントの関するワークショップや研究交流を実施した。科研メンバーからは中川、沼田、岩澤が参加した。なお、予定していたバンコク、ジョグジャカルタでのフォーラムについては、繰越金によって 2020 年度に実施した。科研メンバーからは中川、岩澤が発表した。ジョグジャカルタ芸術大学からの研究者招聘は新型コロナの感染拡大のため実施できなかった。チュラロンコン大学との共同編集を行っている英文ウェブジャーナル Journal of Urban Culture Research は予定通り刊行した。以後、順調に毎年度刊行した。

2020 年度(令和２)は新型コロナウィルスの世界的蔓延によって極めて大きな影響を受けた。結局、その影響は 2022 年度にまで及び、本科研の当初の研究計画通りに実施するのは困難となった。しかしバンコクでの「都市文化研究フォーラム」とジョグジャカルタでの「都市研究フォーラム」はオンラインであったが実施し、ともに COVID-19 を研究者や実践者はどのように受け止めているのかという現状報告を中心に熱心な議論を交わした。こんな時期だからこそ文化実践が重要であることが確認された。また、アジア・アーツマネジメント会議は 2021 年 1 月に、Living Arts International (ニューヨーク)、Mekong Cultural Hub(台北)と連携しながら台北で開催される予定であったが、翌年度への延期となった。海外渡航ができなくなったため、社会包摂型アーツマネジメント研究に「比較」の視座を大きく導入し、国内の地域アートプロジェクトや socially engaged arts、祭礼、民俗芸能のフィールドワークを実施し、日本のアーツマネジメントをアジアの中に再布置することの試みようとした。大阪市西成区、京都府木津川などにおけるアートプロジェクトの調査を行い、映像記録、ブックレットなどを刊行した。また、コロナ禍での福祉施設における芸術文化実践の現状を探るアンケートも実施した。福祉施設ではとりわけ感染については神経質にならざるを得ず、対面的な要素を大きくもつアート実践は低調にならざるを得ないが、それでもアートの可能性を追求するという考えには変わりのないことが確認された。同時にアート関係者の収入格差（男性と女性）も明らかとなった。

2021 年度（令和３）もまた新型コロナウィルスの世界的蔓延によって大きな影響を受けた。しかし、対面とオンラインを組み合わせながら、当初に予定していた研究・調査は、海外からの研究者招聘を除いては滞りなく実施できた。さらに国内においては計画以上の調査も実施できた。バンコクでの「都市文化研究フォーラム」はオンラインであったが、ともに COVID-19 とどのように共存しながら文化実践を進めてゆくことができるのかという問題意識のもと、各国から参集した研究者によって熱心な議論が行われた。また、アジア・アーツマネジメント会議は 5 月に、Living Arts International (ニュー ヨーク)、Mekong Cultural Hub(台北)と連携しながらオンラインで実施した。科研のメンバーがオンラインで東南アジア 5 ヶ国のアートプロジェクトについてインタビューを行い、それをもとにワークショップを実施した。この会議では、COVID-19 によって隠されがちな地域の社会的課題、例えば強権的な政治、検閲などに対峙する文化実践の方法や可能性に関して議論を行った。そしてこの会議で形成されたネットワークを活用しながら、マイノリティをテーマとするアジアの詩集を、他の助成金と組み合わせて刊行することができた。社会包摂型アーツマネジメント研究に「比較」の視座を大きく導入し、昨年度と同様、国内の地域アートプロジェクトや祭礼、民俗芸能のフィールドワークを実施し、日本のアーツマネジメントをアジアの中に再布置する目的で、大阪市西成区、京都市南区、下京区などにおけるアート実践の調査、研究を行い、論文を上梓した。加えて、北アルプス国際芸術祭、奥能登国際芸術祭、紀南アートウィーク、奥大和マインドトレイルなどの地域アートフェスティバルの調査も実施し、SEA の可能性について考察した。

2022 年度（令和４）では、社会とともにコロナ禍から日常へという変化に対応して、最終年度の計画を実施した。ジョグジャカルタでの「都市研究フォーラム」は‘Post Pandemic Arts,

Tourism and Cultural Management'というテーマで 2022 年 8 月 23 日にインドネシア芸術大学ジョグジャカルタ校にて開催した(ハイブリッド)。科研メンバーは対面参加はできなかったが、中川が'How is Gamelan developing in Japan?：A Case Report on Marga Sari'と題するオンライン発表を行なった。インドネシアの外でのガムラン文化のマネジメントに関する内容である。バンコクでの「都市 文化研究フォーラム」は 2023 年 3 月 7~8 日に'Urban Voices'というテーマで実施した(オンライン)。夥しい都市の音の中から「聞こえぬ声」を聞き出そうという趣旨で、27 件の発表、世界各地 16 ヶ国からの参加があり、中川が全体の総括を行なった。アジアでは新自由主義的な市場原理で経済を回す方向性が加速化し、一方で歪みや格差が大きくなっている。その結果、ジェントリフィケーションのなかで、アートは「加担と批判」の間を揺れ動いている。本科研の肝は、その部分についての研究を深める点にあることを再確認すると同時に、データを蓄積することの重要性を改めて認識した。昨年度に引き続き、マイノリティをテーマとするアジアの詩集'Voices from A'第 2 巻を刊行した。また社会包摂型アーツマネジメント研究に「国際比較」の視座を導入するため、大阪市西成区の寄せ場(釜ヶ崎) で活動する紙芝居劇団の調査を集中的に行ない、全作品の映像化を完成させることができた。高齢で多様なセクシュアリティをもつ人々の集合体である劇団「むすび」の価値を「弱さ」の強みとして捉え、その理論的強化に取り組んだ。その他、科研メンバーは学会などでの口頭発表、論文執筆、現場実践を積極的に行なった。

以上、新型コロナウィルスによる世界的感染の影響を大きく受けながらも、その事態を取り込みつつ、多様な価値観を持つアジアにおけるアーツマネジメントのモデル化作業の歩みを進めることができた。また国際的ネットワークも充実したものとなった。しかし、アジアの現場でのフィールドワークがあまりできなかったことから、具体的な政策提言にまでは至らなかった。他方で、国内の SEA について比較の視座から調査できたことは、今後の研究の展開にとっては有益なプロセスとなった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 沼田里衣（ほんまなほと共著）	４．巻 13
２．論文標題 音とことばによる対話に関する臨床音楽学研究：「おとあそび工房」における試みから	５．発行年 2022年
３．雑誌名 アートミーツケア	６．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 岩澤 孝子	４．巻 72-1
２．論文標題 コミュニティダンスと社会的距離ーCOVID-19禍におけるアーティストたちの挑戦ー	５．発行年 2021年
３．雑誌名 北海道教育大学紀要（人文科学・社会科学編）	６．最初と最後の頁 79-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 岩澤 孝子	４．巻 72-2
２．論文標題 オンライン型教育コンテンツの開発ーポピュラー音楽と伝統文化を融合した現代中国音楽文化の活用ー	５．発行年 2021年
３．雑誌名 北海道教育大学紀要（教育科学編）	６．最初と最後の頁 325-339
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 垣田裕介	４．巻 112(10)
２．論文標題 就労支援のプロセスと効果を可視化する ： 就労支援のあり方を考えるために	５．発行年 2021年
３．雑誌名 都市問題	６．最初と最後の頁 78-89,
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 垣田裕介	4．巻 16(4)
2．論文標題 新型コロナ禍のもとで居住支援のあり方とニーズについて考える	5．発行年 2022年
3．雑誌名 季刊個人金融	6．最初と最後の頁 72-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤野一夫	4．巻 24
2．論文標題 新型コロナ禍での「世間」の同調圧力と芸術文化の課題ーー人の喜ぶのを見て素直に喜ぶことのできる社会のために	5．発行年 2022年
3．雑誌名 社会文化研究	6．最初と最後の頁 23-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 垣田裕介	4．巻 139
2．論文標題 新型コロナウイルス感染拡大下の生活困窮者：ある自立相談支援機関における全数調査の分析	5．発行年 2020年
3．雑誌名 社会福祉研究	6．最初と最後の頁 63-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 垣田裕介	4．巻 652
2．論文標題 グローバル視点を交えて日本のホームレス・不安定居住を捉え直す	5．発行年 2020年
3．雑誌名 大阪保険医雑誌	6．最初と最後の頁 34-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤野一夫	4．巻 14
2．論文標題 芸術文化は民主主義にとって必要だ―パンデミック時代のドイツの文化政策―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 文化政策研究	6．最初と最後の頁 16-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤野一夫	4．巻 127
2．論文標題 コロナ禍におけるドイツ文化政策の今	5．発行年 2021年
3．雑誌名 CEL	6．最初と最後の頁 26-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中川眞	4．巻 23号
2．論文標題 大きな力と対峙するアーツマネジメント	5．発行年 2020年
3．雑誌名 空間・社会・地理思想	6．最初と最後の頁 207-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 ヒェラルド・コルナトウスキ	4．巻 23
2．論文標題 新自由主義・ジェントリフィケーション概念の適確さを問う――サービスハブ論を中心に	5．発行年 2020年
3．雑誌名 空間・社会・地理思想	6．最初と最後の頁 173-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 垣田裕介	4．巻 22
2．論文標題 貧困と居住――居住支援をめぐる政策・支援実践の動向と論点	5．発行年 2019年
3．雑誌名 貧困研究	6．最初と最後の頁 12-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kazuo Fujino	4．巻 1
2．論文標題 Kulturtransfer zwischen Japan und Westeurope in den 1930er-Jahren, Umemoto Rikuhei im Vergleich mit dem Taenzerpaar Eguchi Takaya und Miya Misako	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Forschungsfeld Kulturpolitik-Eine Kartierung von Theorie und Praxis, Herausgegeben von Daniel Gad, Katharin M.Schroeck und Aron Weigl	6．最初と最後の頁 439-450
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計36件（うち招待講演　7件／うち国際学会　23件）

1．発表者名 中川眞
2．発表標題 東南アジアおよび日本におけるアーツマネジメントによる国際ネットワークの形成
3．学会等名 東南アジア学会
4．発表年 2021年

1．発表者名 沼田里衣
2．発表標題 コミュニティ音楽における音楽の参加方法に関する実践研究
3．学会等名 日本音楽即興学会
4．発表年 2022年

１．発表者名 岩澤孝子
２．発表標題 ラオスにおける映像制作プログラムー@My Libraryによる学びと創造のプロセスー
３．学会等名 東南アジア学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 垣田裕介
２．発表標題 新型コロナウイルス感染拡大と日本の社会政策――生活困窮者の実態と論点
３．学会等名 韓国社会保障学会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 垣田裕介
２．発表標題 新型コロナウイルス感染拡大で可視化された日本のインフォーマル就業の実態
３．学会等名 社会保障国際論壇
４．発表年 2021年

１．発表者名 ヒェラルド・コルナトウスキ（G. & Ching, Cと共同発表）
２．発表標題 Survival and intervention in home-making under extreme inequality: the ‘street sleepers’ of Hong Kong
３．学会等名 RC21, University of Antwerp（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 ヒェラルド・コルナトウスキ（G. & Tang, W.Sと共同発表）
２．発表標題 Introductory remarks
３．学会等名 International workshop on radicalism in theory and practice（九州大学）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 ヒェラルド・コルナトウスキ（Rimi Khan・関鎮京・朝倉由希・南田明美と共同発表）
２．発表標題 在留外国人のための文化政策と都市 - 日本およびアジア諸国の事例比較から
３．学会等名 九州大学アジアウィーク2021
４．発表年 2021年

１．発表者名 ヒェラルド・コルナトウスキ（矢野淳士と共同発表）
２．発表標題 地域との関わり・つながり
３．学会等名 トヨタ財団連続オンラインセミナー（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 中川眞
２．発表標題 Arts with COVID-19
３．学会等名 アートミーツケア学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 中川眞
２．発表標題 民俗芸能のラディカリズム
３．学会等名 京都芸術センターシンポジウム「疫病と芸能」（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 中川眞
２．発表標題 被災地芸能の文化的脈絡の拡張　虎舞（岩手県）を事例として
３．学会等名 東アジア包摂都市ネットワーク国際シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 中川眞
２．発表標題 コロナ状況下における音楽活動
３．学会等名 民族藝術学会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 中川眞
２．発表標題 虎舞移植の背景
３．学会等名 国立民族学博物館フォーラム阪神虎舞
４．発表年 2021年

１．発表者名 中川眞
２．発表標題 Epidemic and Performing Arts - Coexistence with Infectious Diseases
３．学会等名 Urban Culture Research Forum, Chulalongkorn University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 中川眞
２．発表標題 Asian Arts Management Conference
３．学会等名 ICCPR（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 中川眞
２．発表標題 Local Performing Arts under Epidemic Disaster in Japan
３．学会等名 Urban Research Forum in Yogyakarta（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 ヒェラルド・コルナトウスキ（Constance Chingと共同発表）
２．発表標題 The integrative housing context: Social innovation in home-making for the homeless in Hong Kong
３．学会等名 Perspectives on Social Inclusivity（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 ヒェラルド・コルナトウスキ
２．発表標題 サービスハブにおける危機とイノベーションのダイナミックスに関する国際比較研究
３．学会等名 東アジア包摂都市ネットワーク国際シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 ヒェラルド・コルナトウスキ
２．発表標題 香港の社会住宅―土地制度の隙間を活かす住宅運動として
３．学会等名 包摂都市ネットワーク・ジャパン
４．発表年 2020年

１．発表者名 岩澤孝子
２．発表標題 Community and Dance under COVID-19 situation" at Urban Research Plaza
３．学会等名 Urban Culture Research Forum, Chulalongkorn University（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 沼田里衣
２．発表標題 Music in Movement: Examining the relationship between musical style and the aims of community music therapy
３．学会等名 world congress of music therapy（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 沼田里衣
２．発表標題 音楽する場を作ること：音楽教育、アートマネジメントの例とともに
３．学会等名 OCUテニュアトラック研究集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Shin Nakagawa
２．発表標題 Gamelan activity in Osaka and its social context’
３．学会等名 The Center for Pacific-Asia Music Research Seminar Series（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Shin Nakagawa
２．発表標題 Socially Inclusive Arts Management in Japan
３．学会等名 MCH Special Seminar ‘Dialogue about Socially Inclusive Arts Management（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Shin Nakagawa
２．発表標題 Reexamination of traditional performing arts as a key cultural resource for sustainable community; beyond dichotomy of urban vs. rural
３．学会等名 The 45th World Congress of International Council of Traditional Music（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Shin Nakagawa
２．発表標題 Bon Odori：The most loved Japanese folk performing art
３．学会等名 Seminar of National Museum for Visual Arts, Montevideo Uruguay（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Shin Nakagawa
２．発表標題 Socially Inclusive Arts Management as Social Engine in the Era of Post-colonialism
３．学会等名 Humboldt Conference in Dong-A University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Shin Nakagawa
２．発表標題 Socially Engaged Arts Management and Community
３．学会等名 The 14th International Conference of Asian Arts Management in Cambodia（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Takako Iwasawa
２．発表標題 Creative Communication and Comuunity Empowerment in Contemporary Thailand
３．学会等名 The 45th World Congress of International Council of Traditional Music（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kornatowski, G
２．発表標題 Regulating Unpredictability: Contested Migrant Worker Spaces and Voluntary Sector Geographies in Singapore
３．学会等名 The 4th Workshop on the Geopolitical Economy of East Asian Developmentalism（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kornatowski, G
２．発表標題 Spaces of ambivalence: Contestation and collaboration in Singapore’s migrant worker service hubs
３．学会等名 International Conference of Critical Geography（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kornatowski, G
２．発表標題 Inner-city Service Hubs in East Asian City-regions: Hong Kong and Singapore in Comparative Perspective
３．学会等名 the 9th EA-ICN Workshop, National Housing and Urban Regeneration Center（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 垣田裕介
２．発表標題 質的調査を進めていくために――社会政策研究としての社会調査
３．学会等名 社会政策学会2019年度春季（第138回）大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 垣田裕介
２．発表標題 福祉国家の国際動向と日本の子ども家庭福祉政策
３．学会等名 第11回東アジア社会福祉モデルワークショップ（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 垣田裕介
２．発表標題 貧困と公的扶助（指定討論）
３．学会等名 第15回社会保障国際論壇（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計18件

１．著者名 中川眞（日髙真吾、橋本裕之と共編）	４．発行年 2022年
２．出版社 大阪市立大学都市研究プラザ	５．総ページ数 128
３．書名 阪神虎舞の誕生	

１．著者名 中川眞（監修）	４．発行年 2022年
２．出版社 一般社団法人スペース天	５．総ページ数 67
３．書名 Voices from A	

1．著者名 中川眞（監修）	4．発行年 2022年
2．出版社 奈良地域伝統文化保存協議会	5．総ページ数 38
3．書名 十津川村の盆踊り　解説集	

1．著者名 藤野一夫	4．発行年 2022年
2．出版社 水曜社	5．総ページ数 294
3．書名 みんなの文化政策講義 文化的コモンズをつくるために	

1．著者名 藤野一夫（大関雅弘、吉田正岳と共編）	4．発行年 2021年
2．出版社 水曜社	5．総ページ数 239
3．書名 市民がつくる社会文化 ドイツの理念・運動・政策	

1．著者名 ヒェラルド・コルナトウスキ（陸麗君と共編）	4．発行年 2022年
2．出版社 大阪市立大学都市研究プラザ	5．総ページ数 148
3．書名 外国人・寮付き派遣労働者の地域生活を支える社会的インフラ――コミュニティハブ概念の構築	

１．著者名 中川眞（共著）	４．発行年 2022年
２．出版社 森話社	５．総ページ数 288
３．書名 「地域市民演劇」の現在	

１．著者名 平田オリザ（共著）	４．発行年 2022年
２．出版社 論創社	５．総ページ数 352
３．書名 別役実の風景	

１．著者名 平田オリザ（共著）	４．発行年 2021年
２．出版社 晶文社	５．総ページ数 272
３．書名 撤退論　歴史のパラダイム転換にむけて	

１．著者名 平田オリザ（共著）	４．発行年 2021年
２．出版社 青幻社	５．総ページ数 208
３．書名 ニッポンの芸術のゆくえ なぜ、アートは分断を生むのか？	

１．著者名 平田オリザ（共著）	４．発行年 2021年
２．出版社 集英社	５．総ページ数 400
３．書名 「自由」の危機　息苦しさの正体	

１．著者名 平田オリザ（共著）	４．発行年 2020年
２．出版社 晶文社	５．総ページ数 268
３．書名 街場の日韓論（犀の教室）	

１．著者名 平田オリザ（共著）	４．発行年 2020年
２．出版社 晶文社	５．総ページ数 312
３．書名 ポストコロナ期を生きるきみたちへ	

１．著者名 ヒェラルド・コルナトウスキ(共著)	４．発行年 2021年
２．出版社 包摂都市ネットワーク・ジャパン	５．総ページ数 248
３．書名 感染症と都市のたたかい―分断都市から包摂都市へとつなぐ実践	

１．著者名 ヒェラルド・コルナトウスキ(共著)	４．発行年 2020年
２．出版社 東信堂	５．総ページ数 328
３．書名 分断都市から包摂都市へ――東アジアの福祉システム	

１．著者名 垣田裕介（共著）	４．発行年 2021年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 264
３．書名 福祉政策とソーシャルワークをつなぐ	

１．著者名 藤野一夫（編）	４．発行年 2020年
２．出版社 水曜社	５．総ページ数 272
３．書名 基礎自治体の文化政策 まちにアートが必要なわけ	

１．著者名 藤野一夫（編著）	４．発行年 2020年
２．出版社 水曜社	５．総ページ数 268
３．書名 基礎自治体の文化政策　まちにアートは必要なわけ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	コルナトウスキ　ヒェラルド (Geerhardt Kornatowski) (00614835)	九州大学・比較社会文化研究院・講師 (17102)	
研究分担者	沼田　里衣 (Numata Rii) (10585350)	大阪公立大学・大学院文学研究科・准教授 (24405)	
研究分担者	藤野　一夫 (Fujino Kazuo) (20219033)	芸術文化観光専門職大学・芸術文化・観光学部・教授 (24507)	
研究分担者	垣田　裕介 (Kakita Yusuke) (20381030)	大阪公立大学・大学院生活科学研究科・准教授 (24405)	
研究分担者	岩澤　孝子 (Iwasawa Takako) (40583282)	北海道教育大学・教育学部・准教授 (10102)	
研究分担者	平田　オリザ (Hirata Oriza) (90327304)	芸術文化観光専門職大学・芸術文化・観光学部・教授 (24507)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計10件

国際研究集会 The 18th International Forum of Urban Culture Research in Bangkok	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Meeting Point (online)	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 The 14th International Conference of Asian Arts Management in Cambodia	開催年 2020年～2020年

国際研究集会 The 19th International Forum of Urban Culture Research in Bangkok	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 The 20th International Forum of Urban Culture Research in Bangkok	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 The 17th International Forum of Urban Culture Research in Bangkok	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 The 20th International Forum of Urban Research in Yogyakarta	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 The 19th International Forum of Urban Research in Yogyakarta	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 The 18th International Forum of Urban Research in Yogyakarta	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 The 17th International Forum of Urban Research in Yogyakarta	開催年 2019年～2019年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
タイ	チュラロンコン大学			
インドネシア	ガジャマダ大学	インドネシア芸術大学		
その他の国・地域	国立台湾芸術大学	Mekong Cultural Hub		
その他の国・地域	台南芸術大学			
カンボジア	Cambodian Living Arts			